

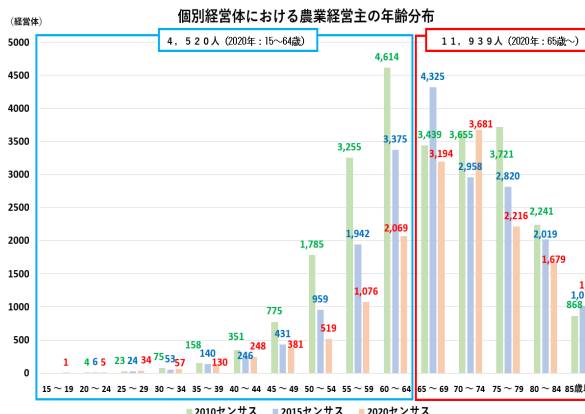
香川県農業・農村の現状等

- ◎ 本県の農業・農村は、基幹的農業従事者の減少や高齢化が進むとともに、耕地面積及び、主食用米の作付面積の長期的な減少傾向など、依然として厳しい状況にある。
- ◎ 一方、新規就農者の増加や担い手への農地利用集積が拡大し、農業産出額及び農業生産関連事業総販売金額も増加しているものの、いずれも全国平均を下回っている状況にある。

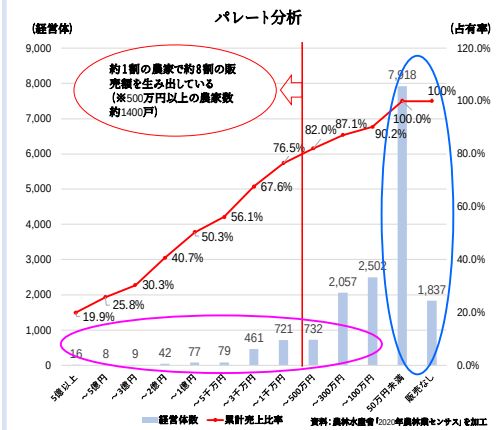
項 目	進 捗			項 目	進 捗		
	2013 (全国平均)	⇒	2023 (全国平均)		2013 (全国平均)	⇒	2023 (全国平均)
基幹的農業従事者数	21.4千人 (37.1千人)	⇒	15.3千人 (24.8千人)	新 規 就 農 者 数	110人 (－)	⇒	141人 (－)
基幹的農業従事者 平 均 年 齢	69.7歳 (66.5歳)	⇒	72.7歳 (68.7歳)	担 い 手 へ の 農 地 利 用 集 積 率	26.8% (48.7%)	⇒	33.1% (60.4%)
耕 地 面 積	31,500ha (96,532ha)	⇒	28,500ha (91,476ha)	農 業 産 出 額	760億円 (1,824億円)	⇒	978億円 (2,033億円)
主食用米の作付面積	15,200ha (32,383ha)	⇒	10,100ha (26,426ha)	農 業 生 産 関 連 事 業 総 販 売 金 額	205億円 (387億円)	⇒	352億円 (470億円)
ほ 場 整 備 率	36.9% (63.8%)	⇒	39.6% (68.7%)	多面的機能の維持・発揮活動 を行う農用地面積*	13,784ha (－)	⇒	15,337ha (－)

※多面的機能支払の活動支援面積のうち、左欄は制度が開始した2014の数値

- ◎ 農業経営主の年齢分布のうち、最も多い年齢層は、2010年は60～64歳であったものが、2015年は65～69歳、2020年は70～74歳となり、高齢化が進んでいる。



- ◎ 販売農家のうち、1経営体あたりの販売額500万円以上の農家約1割で総販売額の約8割を生み出している。



次期計画の基本目標、基本方針、施策体系

基本目標

「かがわの農業・農村」の未来を拓き、次世代へ継承

基本方針 I

儲かる！魅力と未来ある農業の実現



基本方針 II

地域を守り、支える農業の推進



基本方針 III

持続的な農産物の供給



【施策体系】

I 儲かる！魅力と未来ある農業の実現

1. 儲かる！かがわ型農業の推進

- ① 消費者ニーズに応じた生産振興
- ② ブランド力の強化と販路拡大
- ③ 6次産業化・農商工連携の推進

2. 農業の魅力を高める未来投資

- ① 生産性を高める基盤整備の推進
- ② 農地集積・集約化と優良農地の確保
- ③ 新技術等の開発・普及による技術革新

3. 次世代の担い手の確保・育成

- ① 核となる担い手の育成
- ② 新規就農者の確保・育成

II 地域を守り、支える農業の推進

1. 農村を支える人財の確保

- ① 多様な農業人材の確保・育成
- ② 他産業を含めた農業支援サービス事業体の確保
- ③ 農福連携の推進
- ④ 短時間労働など柔軟な働き方の推進
- ⑤ セーフティネットの確保・整備

2. 農業生産基盤の保全管理と防災・減災対策

- ① 農業水利施設の保全管理
- ② ため池の防災・減災対策

3. 継続できる農業の実現

- ① 集落営農組織の持続的発展
- ② 地域資源を活用したスモール農業の普及
- ③ 農地を一元管理する地域まるっと方式の導入

4. 農村の振興

- ① 農地・農村環境の持続的な保全管理
- ② 農村の活性化

III 持続的な農産物の供給

1. 農産物の安定供給

- ① 安定した食料システムの確立
- ② 全世代を対象とした食育・花育の推進
- ③ インバウンドによる食関連消費の拡大
- ④ 流通の合理化・効率化
- ⑤ 合理的価格の形成を啓発・普及

2. 食の安全・安心の推進

- ① GAPなど生産工程管理の推進
- ② HACCPなど食品衛生管理の推進
- ③ 防疫体制の整備

3. 環境と調和のとれた食料システムの確立

- ① 耕畜連携による資源循環型農業の推進
- ② みどりの食料システムの普及